

■屋内緑化コンクール2024 受賞結果一覧

受賞においては、賞を提供して下さる団体にふさわしい作品を選びました。

審査日：令和6年6月5日

応募点数：作品部門54点 緑の取り組み部門7点 計61点

審査委員：町田ひろ子 町田ひろ子アカデミー代表取締役（審査委員長） 槇島みどり 東京農業大学客員教授 景観デザイナー

松本 博 豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授 前田 悟 屋内緑化推進協議会会長

授賞	No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由	
作品部門 (A)	一般社団法人日本インドア・グリーン協会理事長賞	A-23	park !	東京都港区	株式会社TBSテレビ 株式会社パーク・コーポレーション parkERs	本社オフィス12階のスペース全体を、食事、コミュニケーション、リフレッシュのペースとして、誰もが一息つける空間となるよう計画した。公園のように自由に人が集い、社員も、来訪のお客さまも24時間自由に使える、オフィスの憩いの場になるようにした。植栽帯と一体になった曲線のコルク製ベンチは、一人でもグループでも、ベンチの好きな場所に腰をかけることができる。多様な樹々や葉が幾重にも重なり、枝は通路に伸びて木々の下を歩く楽しさを感じさせる。傾斜をつけた植栽帯は、室内空間でありながら大地とのつながりを感じさせる。ベンチには水が湧き上がる水盤があり、ゆらぐ水面と水音が自然なコミュニケーションの誘発も促す。外からは木々がパティーション代わりの役割を担っている。 インドアであることを忘れる空間づくりはこれからのインドアグリーンの方向を示唆するとして選ばれました。
	公益財団法人日本家庭園芸普及協会会長賞	A-54	イオンモール豊川	愛知県豊川市	株式会社プラネット	ショッピングモール内の大型植栽、壁面緑化、プランター緑化、造作家具プランターなどの屋内緑化。レストスペースとセットで植栽が効果的に計画・配置され、どこを歩いても植栽が目に入る緑豊かな施設となっている。全植栽を施工性や環境性の高いハイドロカルチャーシステムとしており、植物の根を健全に生育させる植込み材として、レカトン、パフカルチップ、シリカソイルの3つの素材を混ぜたオリジナルの特殊な培地を使用している。バイオフィリックデザインは植物が活力を維持しその力を発揮してこそ有効であるが、設計協力、施工、メンテナンスまでの一貫管理で施工1年で植物は美しく旺盛に生育している。 ハイドロカルチャーシステムは家庭においても簡易な管理で良好な生育をしめすが、培地の工夫により良好な生育を示していることから選ばれました。
	一般財団法人日本花普及センター会長賞	A-42	アーバンネット仙台中央ビル 室内緑化デザイン	宮城県仙台市	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 鹿島建設株式会社 株式会社パーク・コーポレーション parkERs	ビジネスパーソン、起業家、研究者、学生、そして地域の方々など様々な想いを抱いた人々が集い、イノベーションを生み出す場としてのオフィスビルである。テラスや吹き抜けのある開放感あふれるワークプレイスとして大胆に緑化を施したコワーキングスペースは、街路樹や屋外テラスの緑量とのバランスを考慮し、緑と人の距離感を丁寧に意識した居心地の良い空間を演出している。他の空間も樹木を多く取り入れ、移動可能な什器を配置して企業、スタートアップ、地域の方々の方々の様々なイベントや活動に対応可能な空間とした。地球環境への取り組みとして、CASBEE Sランクの取得に加え、オフィスエリアにおいてはBEI(基準一次エネルギー消費量に対する設計一次エネルギー消費)0.50を達成による「ZEB Ready」認証を取得、杜の都「仙台」にふさわしい緑豊かな環境を創出した。 今後屋内緑化を建築の計画段階から計画してゆく流れを示すものとして選ばれました。
	一般社団法人日本ハンギングバスケット協会理事長賞	A-36	東急不動産 BRANZ ギャラリー 表参道	東京都港区	東急不動産株式会社 株式会社環境計画研究所 株式会社日比谷花壇	「環境にも人にもやさしいウェルビーイングな暮らし」を体感してもらうことを目的に、緑・水・石・土・光といった自然要素を積極的に取り入れ、バイオフィリックデザインを主軸とした。エントランスホールには、高さ5.0mのシンボルツリーや2層吹抜の天井まで届く壁面緑化などの豊富な植栽計画に加え、景石・砂利といった自然物や、吹き抜けの高低差を利用した水景により、環境に溶け込みながら「心地良さ」「美しさ」を五感に訴えかける施設としている。施設周辺は、複層構造の照葉樹林帯であったとされており、屋内・屋外共に全ての樹種を在来種から選定・構成している。高木は1年以上光順化させた個体を採用しており、高木以外はハイドロカルチャーとして土を屋内に持ち込まない計画とした。照度分布図による検証を元に、植物育成用LEDライト「Well-light」を採用した。 大きな面積を占める垂直の壁面緑化は水平面を他の用途に使用でき、緑量を確保する有効な手法として」選ばれました。
	屋内緑化推進協議会会長賞	A-31	王子ホールディングス株式会社 本社1階エントランス	東京都中央区	王子ホールディングス株式会社 株式会社グリーバル	在来種の生木植栽と社有林材を使用した木製什器を効果的に配置し、日本を代表する高級商業地域である銀座に居ながら森を感じることができる空間となっている。訪れた人々に癒しを与え、コミュニケーションしやすい環境を提供します。在来種のみを用い、地被、低木も加えた植栽で癒しを感じることができる都会の森を演出している。さらに室内環境への順化と成長を促す植物育成用照明「bio-Light」を組み合わせて、オフィスビルでは最大規模となる在来種を用いた室内緑化を実現した。 在来種の生育維持において、観葉植物と比べ必要とする光の強度が高いため、補助光が必要であるだけでなく、暗さに強い植物を選択し事前に暗さに慣らす必要がある。 屋内緑化の今後の傾向として在来種の使用が求められてきていることから、このような取り組みは有意義であり選ばれました。
	屋内緑化推進協議会努力賞	A-1	0様邸	京都府京都市	株式会社COTOHA	新築の邸宅に、屋内・屋外の緑化装飾を実施した事例で、屋内は既存のインテリアに合うように樹種・鉢をスタイリングしたが、変形した大型樹形の植物を使用し、広い空間を活かした景色を作り上げている。 屋外はプランターを使用して植栽し、花木を織りまぜ、四季を感じる庭に仕上げている。屋外のみ自動散水システムを導入し、管理の負担を少なくしている。屋内、屋外とも統一された色彩のコンテナを使用する等の配慮が見られる。 屋内は植物が生育できる環境を整え、植栽土壌は通気性を第一に考えた資材を用いる等工夫がみられるが、審査資料にそれらの記述がなくさらなる工夫が求められ、努力賞に選ばれました。
	屋内緑化推進協議会努力賞	A-9	そらやLandscape ふくやま本通り店	広島県福山市	そらやLandscape / 有限会社モリタ	時代の流れとともに疲弊した商店街を改修し緑豊かな商店街となったが、全盛期ほどの賑わいは戻らず、商店街の中心にある一店舗（呉服店）をリノベーションした。おもて通りから順番にエントランス・フリースペース・レストランと、3つがシェアするカタチとし、通り抜けれる配置としている。フリースペースは淡水魚が泳ぐ小川の流れる森とし、森の土壌は自然環境にこだわった上で環境負荷の軽減と自然環境保全に配慮した。自然樹木を配植するだけでなく、木屑や落ち葉、枯枝を用いて土壌環境を整えている。 非常に意欲的な取り組みであり事業的にも稀有な緑化であるが、屋内に自然環境を取り入れることは難しく、経年的な推移を見る必要があり、努力賞に選ばれました。

	屋内緑化推進協議会 努力賞	A-15	佐藤園芸 SATO GARDEN	長野県 長野市	株式会社 佐藤園芸 株式会社プラネット	1階は園芸店舗とワーキングスペースにもなるカフェを併設し、植物の購入、仲間と共に過ごす時や、コーヒーや軽食を楽しむ時に、植物の持つバイオフィリック効果を全身で体感できる空間づくりとしている。2階は緑を感じられるレンタルスペースで、イベントやセミナーなどに活用でき、地域に根差したコミュニティスペースとして、室内緑化を促進させるような場所になることを目指している。カフェにはキッズスペースも設置し、植物に囲まれながら遊ぶことで植物への興味や関心などを持つきっかけが期待できる。レンタルスペースは観葉植物の壁面緑化による空間で、セミナーや寄せ植え、挿し木体験会などを開催することで、緑化技術の情報や知識を発信する「緑の拠点」としての機能を果たして。新たな取り組みが随所に見られ、今後取り組みの成果報告がなされることを期待して、努力賞に選ばれました。
	授賞	No	タイトル	所在地	受賞者	受賞理由
緑の 取 組 み 部 門	農林水産省農産局長 賞	B-5	イオンモール豊川- 植物好きな近隣住民 による植栽管理	愛知県 豊川市	株式会社プラネット	この取り組みは、植物好きな一般住民の方に、大規模商業施設内の植栽管理を担っていただいているものである。当施設は非常に多くの屋内緑化が施されており、グリーンサービス業者単独での維持管理は大変難しいため、施設の近隣にお住いの植物好きを募集し、ともに植栽維持管理に努めている。施設内植栽で剪定した植物は、処分ではなく、挿し木をして施設内の照明棚で育てる、いわゆる生産緑化を実践している。成長後は施設内植栽の補植用として再び使用することも想定している。また、一般客の方に向けて挿し木体験会も開催し、成長後の植物を体験された方に差し上げるという取り組みも実践中である。みどりと触れ合うことに楽しさを感じ、それを仕事として取り組むことで、生きがいと仕事を両立させた新しいライフワークを実現している。新たな就業形態の提示であり、傷んだ植物の交換からその場で生育させる業態への変化を期待させることから選ばれました。
	屋内緑化推進協議会 会長賞	B-3	社内からはじまる、 みどりと繋がろう活 動	東京都 千代田区	株式会社安井建築設計事務 所東京事務所	設計提案を行う立場として植物に対する基本的な考え及び障害となる事項を取り除くべく、まずは設計者が、みどりと共存し、みどりの特性や効果を体験することで、“みどりを活かした建築空間の向上を図る設計とはなにか“をひろく考えていく取り組みである。“設計者がみどりと繋がる活動”として、「建築設計者によるバイオフィリア体験型ラボ」「ペットプランツ計画」「植物再生・再利用プロジェクト」を取り上げ、処分される植物を社員自ら再生・再利用し、社内のサステナブル意識を向上させる取り組みを行った。緑を介した風景が日常的に広がり、さらに植物と人の関係だけでなく、社会としての取り組みを考えるとところまでできている。植物のある良好な環境は、人と人が繋がり、まち全体をも巻き込む、みどりと建築の調和を図る活動を行っている。建築設計の段階から屋内・屋外を問わず緑を計画に盛り込む考えが定着することを願い選ばれました。